

ぱんりよく／辺り一面が草木の深い緑に覆われた状態。初夏の新緑のみずみずしい緑よりも強い、真夏の深い緑を想像させる言葉です。

らしく、
らしく

自分らしく、
粹なくらし

特集

環境を守る

自然と文化に触れることが第一歩▼湯来のまち再生プロジェクト協議会
食料豊富な広島だからこその取り組み▼広島市食農コーディネーター・山水風土の会
森を安全に耕して、川を育み、自然を守る▼エコロジー研究会ひろしま

第11回H₂助成団体決定／支援団体の紹介／人材バンク名人達人 宝人／ようこそ！公民館へ・安佐南区内公民館
らしつくレポート・JR広島駅前の街並み／らしつくコラム・浮遊粒子状物質と越境環境問題／情報森／プラザ通信



環境を守る

近年、色々な場で耳にする「環境問題」。一見、壮大なテーマですが私たちの生活にも環境問題は密接しています。今回は、誰もがすぐに始めることができる環境問題について取り組んでいるグループの活動を紹介します。



▲「湯来町で夏休み自由研究をしよう」の様子

脈々と受け継がれてきた 自然と文化に触れること。 それが、身近で誰にでも取り組める第一歩へ

湯来のまち再生プロジェクト協議会

<http://kominka-satoyama.jimdo.com/>

**自然と歴史の町の再生を
通じて見つけたキーワード**

豊かな自然に恵まれ、古き良き町並みが残る歴史と伝統の町、広島市佐伯区湯来町の農業・商業関係者、そして住民たちによって結成された「湯来のまち再生プロジェクト協議会」が、町を流れる水内川を舞台に、小学生と保護者を対象とした自然学習会を展開しています。

平成21年に、広島市の事業の一環で湯来町を舞台に地域の活力を担う観光まちづくりリーダー等の人材育成の場としてスタート。翌平成22年からは「広島ツーリズム大学」として発展し、広島及び周辺地域における自然、歴史、文化などの地域資源を活用した交流体験型観光の推進を図ってきました。その中で、いかに地域と密着していくのかを模索していく中で立ち上がったのが「湯来のまち再生プロジェクト協議会」です。

ば、住居等を手入れする人も少なくなつて環境が悪化する恐れが出てきます。そこで、まずは湯来町の魅力を知ってもらうきっかけ作りとして、子どもたちに遊びに来てもらう機会を増やすことを考え、最初に企画したのが湯来町の自然を活かした地域密着型のプログラムです。小さい子どもたちに、町を流れる水内川を使って、魚だけでなく、昆虫や植物などと触れ合う場を提供しました。知っているようで実は余り知られていない自然界の生物を身近に感じてもらうことで、自然を大切にすることが、どれだけ環境問題に役立っているかを理解してもらいたいと考えたんです。湯来のまち再生プロジェクト協議会の岡真里さんは、こう語ります。



▲ 岡 真里さん

**無邪気な子どもたちが
教えてくれた
身近な取り組みへ踏み出す勇氣**

平成24年7月と8月の3日間、広島市内の小学生とその保護者約50人と、広島工業大学環境学部地球環境学科の学生たちを中心に組織するグリーンプロジェクトのメンバー、そして湯来町の住民たちが参加して開かれたプログラム「湯来町で夏休み自由研究をしよう」。専門家による、水の誕生と川に流れるメカニズム講座や、川にある流木などを使って動物の模型を作る創作体験、さらには実際に川を自由に散策して、そこに生きている動植物の生態を子どもたち自身が、自分の目で見て、触れて肌で感じる取り組みを行いました。



▲「湯来町で夏休み自由研究をしよう」創作体験時に流木で作った動物の模型

**知って、実際に触れること。
その継続が、
大きな取り組みへ**

「ひとりで、環境問題と言っても、聞く人によつては壮大な事を想像するかもしれません。しかし、子どもたちが冷たい川の水にじゃばじゃばとつかつて、はしゃぐ姿を見て、環境問題は、壮大な問題に立ち向かつていくよりも、まずは身近な出来事を知って、実際に触ってみることが、環境問題への取り組みの第一歩なのでは、と考えるようになりました」と岡さんは語ります。

また、川で遊ぶだけでなく、平成23年夏から取り組みを始めているのが湯来地区の住民より借り受けた空き家を再生するプロジェクト「古民家 SATOYAMA」です。



▲ 古民家 SATOYAMA

空き家を協議会のメンバーと地域住民が一緒になつてリノベーションし、地域と地区外から訪れる人たちの交流するイベントスペースとして整備。そこでホテルの鑑賞と音

楽を楽しむ会や草木染体験、縁日とお月見会など、四季折々、湯来の自然と催事をテーマにしたイベントを企画したり、その他にも地域に住む現役の職人を招いて修繕ワークショップなど開いたりしています。また将来的には、住民たちと協力を図りながら、農業に挑戦するためにインターンを希望する人の受け入れの拠点に活用することも視野に入れています。

岡さんを始め協議会の皆さんは、この「古民家 SATOYAMA」を発信基地に地域の住民とより密着し、子どもたちにも川での遊びを通して自然の魅力を知ってもらいながら、環境問題への意識づけに繋がる活動を続けていきたいと考えています。

らしく contents

Vol.36
万緑号
2013.7

ページ	特集
1	環境を守る …… 湯来のまち再生プロジェクト協議会 …… 広島市食農コーディネーター「山水風土の会」 …… エコロジー研究会ひろしま
5	第11回Hmi助成団体決定！ 支援団体の紹介 …… もちもちパソコンくらぶ …… 安花の会
7	人材バンク 名人 達人 宝人 …… 反田 哲顕さん …… 藤原 勉さん
9	ようこそ！公民館へ …… 安佐南区内公民館
10	らしくレポート …… JR広島駅前の街並み らしくコラム …… 浮遊粒子状物質と越境環境問題 広島工業大学 環境学部 地球環境学科 小黑 剛成 教授
11	情報の森
15	プラザ通信



表紙写真／「湯来町で夏休み自由研究をしよう」の際に参加者が水内川を散策している様子

川を辿れば、その源は緑豊かな森林。 森を安全に耕すことが、川を育み、自然を守ることに…。

エコロジー研究会ひろしま



▲ カヌー体験の様子

川が結ぶ子どもたちの交流

太田川流域の子どもたちに、川の自然や環境の大切さを伝えるとともに、その素晴らしさを理解してもらい、未来に継承することを目的に、平成3年6月に結成されたのが「エコロジー研究会ひろしま」です。

「エコロジー研究会ひろしま」の活動は、大きく分けると2つ。1つ目は、小学4年生以上とその保護者を対象に、学ぼう、触れよう、楽しもうをテーマに、水や生物に直接触れながら、カヌーや複数の人が一度に乗れるEボート体験などで自然を楽しむと同時に、春には稚魚の放流、夏にはホタルの生態観察、秋には川の水を汚さないためにでき

ることを学んでいくといった季節に合わせた活動を展開する。太田川せせらぎ夢学習塾」です。

「平成8年に始まったこのプログラムは、1年に3回、内容を変えて開いています。活動場所は、広島市の主流でもある太田川で、その太田川の上流域（山県郡安芸太田町筒賀）、中流域、そして下流域（広島市西区己斐地区・観音地区）それぞれの地域に住む子どもたちに参加してもらい、川を通じて交流を図っています。子どもたちは、最初はお互い知らないため、話をすることも少ないのですが、一緒に川に棲む生物を観察したり、直接触れたり、自然のせせらぎや川辺で遊ぶことを通して打ち解け、仲良くなっています」と「エコロジー研究会ひろしま」の事務局長の瀬川千代子さんは語ります。

**世代を超えて自然を守る
バトンリレー**

「エコロジー研究会ひろしま」の、もうひとつの活動として、18歳以



▲ 瀬川千代子さん

上を対象に野外活動体験のリーダーを養成する講座「太田川リバーエコロジー大学」があります。川での活動にはさまざまな知識やノウハウが必要となるため、「川に学ぶ体験活動協議会（略称RAC）」の養成プログラムに沿って、広島でも初級リーダーを養成。1年に4回開講される「リバーエコロジー大学」では、カリキュラム24単位取得で卒業とし、卒業後はRACのリーダーとして正式登録されて、全国で活動することもできます。

この他にも、平成16年には太田川下流、広島市西区己斐地区住民を対象にした憩いの場「こいつふれあいの水辺」を整備。水遊びができる池や、干潟、多目的広場が整備され、己斐地区の子どもたちによるイベントを展開しています。

**時代は変われど、自然は普遍。
ライフスタイルに応じた取り組みを**

「時代と共に、人間のライフスタイルは変わっていきますが、自然は変わりません。その中で、ライフスタイルに応じた環境問題への取り組みを、世代を超えて一緒に考えていきたいと思っています。私たちの活動の中心となっている川は、実はその源にある、森を大切にすることが、最終的に川を大切にすることになると考えています。その森を大



▲ カヌー体験の様子

※ 川に学ぶ体験活動協議会 River Activities Council (略称RAC)
全国各地の川で活動するNPO法人や市民団体が構成される協議会です。川で活動することを通して、人間性の回復や水環境の保全についての認識を広げることを目的としています。

切にするにはどうすればよいのか。その問題についても、地域を越えて、子どもたちと一緒に考えていくことが、環境問題に対する意識の向上に繋がってくると考えています。子どもたちが、大人になった時にリーダーシップを発揮して自然について身近に感じてもらえるようになればと考えています。

広島で生活する中では、欠かせない川との共存を通して、環境について考えている組織の今後の活動が楽しみです。

食と農の大切さを学ぶ中で発見。 食材豊富な広島だからこそ取り組む活動

広島市食農コーディネーター「山水風土の会」

<http://blog.goo.ne.jp/sannsuifu-do>



▲ 山水風土の会メンバーの皆さん

食と農の理解促進を図って、その大切さを伝える役割

食と農の理解を広めるため、農産物の栽培から食べることまでの一貫した食農体験などの企画・運営、地産地消の輪を広げることを目的に、広島市が平成19年から募集を始めた市民ボランティア制度の広島市食農コーディネーター。一年間、食農体験の研修を積み重ねた後、現在はそれぞれが食農コーディネーターとして広島市内の各公民館を中心に活躍されています。さらに、コーディネーターの皆さんが連携して積み重ねてきたことを市民の皆さんに広めていくことを目的に、平成20年に結成したのが「山水風土の会」です。



▲ イベントに向けてメンバーの皆さんで、料理試作をしている様子

「現在、第二期生から第六期生まで32名の会員が在籍している山水風土の会は、食と農をキーワードに①伝える・繋がるプロジェクト②おやつプロジェクト③山菜プロジェクト④ひろしまベジ・クッキング⑤市民農園イベント⑥食農体験⑦フードフェスティバルへの参画⑧ダンボールコンポスト、といった複数のプロジェクトを立ち上げて各メンバーが講師やスタッフとして担当。広島市内の各公民館を中心に定期的に教室を開催して、地域の方々に食と農の大切さを伝えることが主な取り組みです」と「山水風土の会」の代表の国広美佳さんは語ります。

元々皆さんは、それぞれが食にまつわる様々な分野で活動をされていたそうです。さらに食農コーディネーターとしての肩書も取得することで、それまで以上に地域と連携した形で食と農にまつわるプロジェクトを推進する役目を担っています。

メンバーの好奇心が、会の活動の場を広げるきっかけ

「山水風土の会」は、広島市各地域で食と農に興味のある人を対象として各プロジェクトを推進されています。最近特に注目を集めているのが、ダンボールコンポストプロジェクトです。不要になったダンボールに家庭から出る生ごみをビートモス等の基材と共に入れて、その中で減量・堆肥化を行います。

「もともとは、広島県環境保健協会主催の環境講座を受講して、地域活動を通じて地球温暖化防止活動に興味を持ち始めたのがきっかけです。続いて、平成21年に広島市が開催した「110万人のエコ講座」も受講して、その中で、生ゴミを減らすことが、Co2（二酸化炭素）の削減にも繋がることを知りました。私は食について考える者として、育てる大切さだけでなく、食べ終わって最後廃棄するまでを学ぶことで、一貫した食と農の大切さを学ぶことができると考えました。そしてそれを、会の活動を通じて、多くの人たちにも伝えていきたいと考えました」と会のメンバーで、ダンボールコンポストプロジェクトを担当する河野まゆみさんは語ります。



▲ ダンボールコンポストプロジェクトの実施の様子



▲ ダンボールコンポスト

育て食えることだけじゃない。最後の廃棄までが大切

身近にある問題に興味を持ち、まずは自分ができる事を探して取り組みますが、大きな問題への取り組みへの第一歩となると、国広さん、河野さんを始め、山水風土の会の皆さんは考えています。

広島市食農コーディネーターの募集は、平成25年度で終わりましたが山水風土の会の皆さんは、「会を作った、様々な経験を持ったメンバーと活動することで、自分自身の興味の幅も広がり、向上心が高まっています。これからの、食はただ材料を作って食べるだけではなく、最後の廃棄することまで考えることが食と農の大切さを学ぶことだと思います。それが親から子へ、子から孫へと継承してもらえたいことを目標に活動していきます」と、今後に向けての意気込みを語ってくれました。

海と山、豊かな自然に恵まれ季節の食材も豊富な広島だからこそできる、食と農を通じた環境への取り組みに、新しい着眼点を感じました。